

令和6年度 入学式式辞

並木の銀杏も春の雨に潤い、柔らかな緑を身にまとい始めています。本日、多数のご来賓並びに保護者の皆様の御臨席を賜り、ここに豊多摩高等学校第79期入学生の一歩を祝うことができますことに、心より御礼申し上げます。

ただ今、入学を許可いたしました316名の皆さん、入学おめでとうございます。難関を突破し、今、ここにいらっしゃる皆さんの努力と成果に敬意を表し、教職員一同、ご入学を心から歓迎いたします。保護者の皆様、お子様のご入学、誠におめでとうございます。

多くの方とは、これが初対面ではないと思います。学校説明会や外部会場での相談会などで直接お話しをさせていただいた方もいらっしゃると思います。その折々に私は、三年間の高校生活を充実させてほしいと強調してきました。

私が豊多摩に着任した春。銀杏並木を歩いて、空を見上げました。爽やかな日でした。野鳥のさえずる声が聞こえました。校長室からは、遠慮がちに声を上げながらグラウンドを走る運動部の生徒たちが見えます。時はコロナ禍。まだみんなマスクをして友達の顔も知らなかった頃の話です。この生徒たちに精いっぱい活動をさせて、笑顔で、悔いのない三年間を過ごしてもらいたい。それが私の思いでした。

英語の古い言い回しに、こうあります。

Don't be a parrot in life, be an eagle. A parrot talks way too much and can't fly high but an eagle is silent and has the will power to touch the sky!

訳してみますと、「オウムになるな、鷲になれ。オウムはお喋りしてばかりで高く飛べない。鷲はじっと黙っているが、確固たる意志を持って空に届かんとする。」もちろん、これはひとつのメタファーで、オウムより鷲の方が優れているという意味ではありません。

この *Touch the sky!* という言葉を企業で言う、コーポレートメッセージのように使ってきました。私は、ここに三つの願いをこめています。

ひとつは、この広い学校で伸び伸びと、誰に遠慮することなく大らかに、生活してほしいということ。二つ目に、行動力を期待します。口先だけではなく、自ら動き実行する人になってほしい。ポジティブに、楽しんでください。スポーツでも勉強でも、やらされているうちはまだダメです。そして三つ目に、高いところを目指す。頂点に立つ。もちろん、ひとつでも上の大会で勝ってほしい、目指す大学に行ってほしいという具体的な願いはありますが、さまざまなことを学び、経験し、知識・技術を身につけることは、雲や霧が晴れていくようでもあります。ぼんやりとしていたことがはっきりとわかるようになる。より高い視点に立って、遠くまで見通すことができるようになってほしい。

大空を悠々と行く鷲のように、勇気をもって空高くまで届かんとする、そして、より高い目標にチャレンジする生徒を育てたい。

そのために、今しかできないことに取り組んでほしい。みなさんにこう言うと、おそらくは遊びと

か恋愛とか、思い出作りとか、そんな言葉も返ってきそうです。私が、皆さんにここで取り組んでもらいたいのは、思い出作りのためではなく、後悔することなくここを巣立っていくための生き方です。

夕暮れまで必死になってボールを追いかける。汗を流し、大きな声を上げて走る。ストップウォッチのコンマ 1 秒を競って一喜一憂する。仲間と情熱的に意見を交わす。行事や部活動、あらゆる分野で全力を尽くし、完全燃焼し、お互いの労苦を分かち合う。そういうことです。そして、やり遂げたという達成感をもって卒業の日を迎えてほしい。できれば、あちこちに顔を出すのではなく、ひとつのことに打ち込んでほしい。

そして、本務であるのは勉強。授業はもちろん、メリハリをつけて効率的に集中して学ぶ。ゲームやスマホはお預けにして授業外の学習も大切にしてください。本校では、夜の 7 時半まで自習室などでひたむきに取り組む姿があります。

そんなことを三年間毎日、ただひたすらに繰り返していただきたい。そうすれば、三年後皆さんの前に待っているのは、感動の涙と輝かしい進路であるはずです。伸び伸びと取組み、主体的に行動し、高い目標を達成する。何一つとして欠けてはいけません。すべてのことを成し遂げてください。それが豊多摩の門を通った皆さんに課された責務と考えてください。そんなことが必ずや皆さんの思い出となります。

「今日できることを明日に延ばすな。いつかという言葉で考えては失敗する。今という言葉を使って考えれば成功する。」アメリカ合衆国建国の父、ベンジャミン・フランクリンの言葉です。

今やらなければならないのに、なんとなく面倒になって明日に先送りする、そして明日になってまた先送りしてしまう…それを繰り返しているうちに目標は遠ざかり、手の届かないところに行ってしまいます。皆さんが、今やらなければならないこと、今しかできないことは何ですか。

保護者の皆様、3年後成年年齢を迎える若者たちを世に送り出すために、本校教職員は力を尽くします。今、私も未来を担う人材育成という使命を受け、身が引き締まる思いでここに立っています。入学生の皆さんの限りない可能性を祝し、合わせて保護者の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。本日の式辞とさせていただきます。

新入生の皆さん、ここ豊多摩で今を生きてください。今しかできないことに、精いっぱいに取り組んでください。後悔することのないように。そして、あなたの手が空高くまで届きますように。

Touch the Sky!

令和 6 年 4 月 9 日

東京都立豊多摩高等学校長

枡倉 和則